

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず＜企画シート作成上の注意＞をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ アイチダイガク	フリガナ ケイエイガクブ	フリガナ タメヒロヨシヒロゼミナール
愛知大学	経営学部	為廣吉弘ゼミナール

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ オールフレイ	フリガナ トノムラ マサツグ	5 人
お〜るふりい	外村 正次	

研究テーマ（発表タイトル）

未婚者の出会いを増やすには

1. 研究概要（目的・狙いなど）

現在、日本の生涯未婚率は上昇し続けている。その一方で未婚者のうち、男性・女性ともに約 7 割以上の人々が、結婚願望を持っている。結婚願望があるにもかかわらず、未婚者が結婚できない主な理由は「適当な相手にめぐりあえないから」だ。しかし、出会いのために自ら活動している未婚者は少ない。そこで、私たちは結婚願望があるにもかかわらず、自らは活動できない未婚者をターゲットにした、新たな出会いの場を提供することを目的とする。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本の未婚率を上昇させている要因として、環境要因と主体要因がある。

環境要因としては、主に見合い結婚・職縁結婚の衰退が挙げられる。現在、見合い結婚は衰退が進んでおり、恋愛結婚の割合が増えている。生涯未婚率の上昇は、見合い結婚や拡張された見合い結婚とされる職縁結婚の衰退によるものである。かつて、日本の企業は従業員同士を結ぶマッチング・メーカーの役割を担っており、女性従業員が男性従業員の配偶者となり、結婚退職することを想定していた。しかし、その後景気は悪化し、女性も労働力として期待されるようになった。

もう一方の主体要因は、婚活に対するイメージが悪いことである。婚活サービスを利用したことのない未婚者は婚活に対して「お金がかかる」、「面倒だ」などのマイナスなイメージを持っており、未婚者が自ら活動しない理由にも繋がっている。

私たちは、この環境要因と主体要因の分析から、かつては自ら活動できない人でも社会システムによって結婚できていたが、現在はそのシステムが衰退したことで結婚できなくなったと考える。

3. 研究テーマの課題

昔は身近な大人たちに、結婚相手が紹介されていたため、見合い結婚が当たり前であった。つまり、自ら活動しなくても結婚をすることができていた。しかし、現在は職縁結婚や見合い結婚が衰退し、恋愛結婚が主流となった。そのため、自ら活動しなければ結婚できなくなったが、未婚者の大半は活動していない。従って、私たちは自ら活動していない未婚者に恋愛結婚してもらうための新しい出会いの方法を考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

未婚者の新しい出会いをつくるために、既婚者の出会いのきっかけを調べてみると、結婚相手との出会いは「学校で」、「職場で」、「旅先で」、「習い事で」などであり、何らかのコミュニティを通じてつくられるものだと考えた。コミュニティには 2 種類あり、所属す

るコミュニティと接続するコミュニティが存在する。所属するコミュニティとは、家族・学校・職場といったような、すでに人が集まって作られているコミュニティである。接続するコミュニティとは、本・音楽・スポーツといったような、所属するのではなく、モノやサービスを接続点としてつながるものである。接続するコミュニティは、人々が自身の好きなモノ、好きなコトでつながることができるため、趣味のコミュニティであると言える。そのため、趣味のコミュニティを増やすことができれば、結果的に出会いを増やすことができると私たちは考える。

実際に、私たちが趣味についてのアンケート調査を行ったところ、調査した未婚者の74%（思う・どちらかといえばそう思う）の人が「趣味を通じて初対面の人と交流したい」と思っており、さらに未婚者の91%（思う・どちらかといえばそう思う）の人に「趣味のためにお金や時間を使いたい」という意識があることがわかった。そのため、趣味を通じての新たな出会いを提供する価値はあるのではないかと考えた。

また、趣味の中でも20代から40代の人々が最も多く行っている趣味は旅行である。旅行は1人でも完結できる趣味であるが、同じ趣味を持っている人が多いからこそ、敢えて初対面の人たちと行うことに意味があると考えている。現在、様々な人たちと交流し、旅の感動をシェアするトリッピーズという旅行サービスを提供する会社がある。これは、主に1人で旅に申し込み、申し込んだ人たちが集まって旅をするというものだ。このトリッピーズの第一目的は旅行であるが、その中で新たな出会いが生まれるため、新しいコミュニティが形成できる。それだけではなく、トリッピーズのサポートチームによると、実際にカップルができることもあるそうだ。

私たちは、このような旅をシェアする「シェア旅」に参加することが、未婚者が自ら相手を見つけられる可能性のある手段だと考えている。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

・未婚者の結婚願望、婚活状況、趣味での出会いを調査

調査日時：2019年11月4日～11月8日

調査対象：未婚者 20～40代

調査方法：インターネット法

有効回答数：54

・trippiece サポートチームへのヒアリング

日時：11月4日

6. 結果や今後の取り組み

未婚者が新しいコミュニティを形成するには、シェア旅を通して出会うことが有効である。しかし、現在、シェア旅に多くの未婚者たちが参加しているのか、それ以前にシェア旅のサービスを知っているのか、まだ分からない状況である。従って、シェア旅の知名度、参加状況などについて調査し、シェア旅についてのプロモーションをしていく必要があると考えている。

7. 参考文献

引用文献

・荒川 和久（2019）ソロエコノミーの襲来、ワニブックス PLUS 新書

・岩澤 美帆・三田 房美（2005）職縁結婚の盛衰と未婚化の進展

調査データ

・国立社会保障・人口問題研究所

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2018/30webhonpen/html/b1_s1-1-3.html（最終アクセス日 11.7）

「第15回出生動向基本調査」

http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/NFS15_report3.pdf（最終アクセス日 11.6）

・消費者庁

「平成28年度消費者意識基本調査」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/research_report/survey_002/pdf/adjustments_index_16_170628_0001.pdf（最終アクセス日 11.6）

「若者の消費行動」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2017/white_paper_129.html（最終アクセス日 11.6）

・東京都

「都民の結婚等に関する実態及び意識についてのインターネット調査」

https://www.futari-story.metro.tokyo.lg.jp/support_policy/pdf/result.pdf（最終アクセス日 11.7）

・内閣府

「少子化社会対策に関する意識調査」

<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h30/zentai-pdf/pdf/s4.pdf>（最終アクセス日 11.6）

・プライダル総研

「婚活実態調査 2019」

https://souken.zexy.net/research_news/konkatsu.html（最終アクセス日 11.7）

雑誌記事

・トリップス HP

<https://trippiece.com/>（最終アクセス日 11.6）

・日刊SPA！

<http://nikkan-spa.jp/1583206>（最終アクセス日 11.7）

・毎日新聞

<https://mainichi.jp/articles/20190721/k00/00m/040/403000c>（最終アクセス日 11.7）

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

なし

●発表時に使用する成果物（例．商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

なし

【企画シート作成上の注意】※「第10回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただきます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑